



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

雑報. 地球 1925, 3(3): 403-407

ISSUE DATE:

1925-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/182831>

RIGHT:

○試錐に因る間歇温泉

和歌山縣西牟婁郡瀬戸鉛山村

湯崎は、牟婁の湯として往古より有馬や道後と并せ稱られ、齊明、天武、持統、文武四帝の行幸ありし頗る古い温泉である、近年陸海交通の便が加はるに従ひ浴客も追々増加たる状況であるが、旅館有田屋は、内湯の無きを遺憾とし、大正十二年五月屋敷地内の上總掘の試錐を初め、深さ七十尺に達し、溫度攝氏四十六度、湧出量一時間二石許の温泉を得たが、岩石堅硬で、故障の多い爲め掘進を中止した、更に大正十三年五月掘進工事を再開し、幾多の故障に屈せず、苦心慘愴事業を繼續し、深さ二百〇三尺に達したとき、水温は五十二度と爲り、且つ間歇的の噴出を認めたから、更に勇を鼓して掘進し、十月に至り、深さ二百六十七尺七寸に達し、六十六度(攝氏)の温泉が、一時間約三石の湧出量で、間歇的に口徑三寸の鐵管の上端より、約四五十分宛を距て十四五分間整然噴出するを觀るに至つたので苦心の空しからざりしを非常に喜で居る様子である。温泉の噴出する高さは、鐵管の上端より約三尺以内であるが、大正十四年一月七日より九月に至る連續的觀測によると、其週期及び湧出量は整然たるもので、次の表の通りである。

大正十四年 第一回 第二回 第三回 第四回 第五回 第六回 一月七日									
休止時間	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分
	五・一〇	五・一〇	五・一〇	五・一〇	五・一〇	五・一〇	五・一〇	五・一〇	五・一〇
湧出時刻	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
	九・三〇	二・四〇	九・三〇	二・四〇	九・三〇	二・四〇	九・三〇	二・四〇	九・三〇
中止時	噴初ヨリ	八分	六分	一分	二分	一分	二分	一分	二分
最大噴出	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分
	四・五〇	二・三〇	三・〇〇	二・三〇	三・〇〇	二・三〇	三・〇〇	二・三〇	三・〇〇
休止時	午前	九・五〇	二・〇〇	二・五〇	二・〇〇	二・五〇	二・〇〇	二・五〇	二・〇〇
湧出量	石	三・四	石	二・八	石	二・五	石	三・〇	石
溫度	攝氏	六・五	六・五	六・五	六・五	六・五	六・五	六・五	六・五

試錐個所の地質は第三紀砂岩と頁岩との互層で、頁岩は軟質であるが、砂岩は層も頁岩より厚く、硅質で頗る堅硬である。上總掘の困難なるは是が爲である。

兎に角間歇温泉は伊豆熱海以西に於ては、珍敷もので、噴出の口徑を小にしたならば、僅に七八尺は噴騰するのであるから熱海の噴騰に比し、規模は小さいけれども、室内で觀ることが出来て、頗る便利であるから、手近く間歇温泉の實況の觀たい人は、一遊を試みたらよかるふ、大阪からでも、和歌浦からでも毎日二回汽船が田邊に向ひ、田邊港から巡航船三十分で、網不

知に著き、其より自動車の便があり、十五分位で湯崎に到るこ  
とが出来る。(石川)

### ○温州港の近況

温州港は一八七七年芝罘條約に依り開か  
れたる開港場にして、古き歴史を有するも地方に僻在して何等  
稱すべきものなく、近年日本向として木炭兩季等輸出せらるゝ  
に及び漸く邦人に認めらるゝに至れり。

位置 本港は上海を距る三百二十溫甌江の右岸河口より約三十  
哩の上流にありて、河口より港内に至る水道の水深は變化多し  
交通 温州に入港する船舶は從來上海温州間旅客運送を目的と  
する招商局汽船の月三回入港する外温州海門間及温州寧波間を  
小型汽船の通航する位にして、一ヶ年百五十隻約十萬噸を出で  
ざりしが、温州木炭の輸出開始せられてより木炭積取船の入港  
するもの多く、大正十二年の如きは百七十隻約十五萬噸に増加す  
るに至れり、入港船舶の最も多きは日本船なり。從來日本船の  
温州に入港するもの殆ど無かりしも、大正十一年末より日本木  
炭の輸出盛況となり翌大正十二年の如きは八十八隻の日本船入  
港するに至れり。内地交通は陸運全く開けざるため温州與地間  
の輸送は殆ど水運に依る、甌江は當地方唯一の交通路にして與  
地物産中木材は筏として流下し、其他のものは悉く民船を以て  
輸送し、同時に温州より與地向商品も亦民船に依り送らる。

市内狀況 人口約十八萬城内は温州人及寧波人の商人多く東門  
外は福建人の移住せるもの過半を占む、在留本邦人二十餘名臺  
灣籍民三十名なり、一般人情質朴にして宗教の盛なからず清岸  
隨一と稱せらるる生活程度低き土地樹なれ共教育普及し古來人物

を出し地方より本邦に留學する者多し。

政治は浙江督軍の治下に在りて旅閩司令部、道尹知縣交涉署  
衙門あり商業團體としては商務總會、布業公會、炭業公會及茶  
業公會等有力なるものなり外人は宣教師その他佛、英、米人合  
計四十一五十名各地方に散在し當市には温州支那海關に在勤す  
るものを主として僅かに二十名に過ぎず、目下各國共領事館の  
設置なく本邦側は近時木炭船の入港増加と交渉事件の増加に鑑  
み上海領事館の分館設置の議あるも未だ實施せらるゝに至らず  
温州に輸入せらるゝものは主として砂糖、雜貨、綿布及海産  
物等にして輸出品は茶、葉實、米穀類、輕木材、木炭、明礬、  
種油、蔗、紙、雨傘及蜜柑等なり近來輸出額益々増加しつつあ  
り本邦人の商店は主として木炭業にして三井物産、岩井、鈴木  
小林洋行及東洋堂は其主なるものなり。

氣候温暖なれ共降雨多く四季濕氣を含み市内清潔なちず夏時  
流行病多く不健康地なり。(水路要報による)

### ○海防港の近況

位置 本港は佛領安南東京灣の北西部 Preah 右岸にありて東  
京地方の商業中心たる海内、海東、南定等の都市に對する輸出  
港なり。

本港附近に於ける Kien Kien 河の幅員は二、五哩にして水深三  
—五尋最深處八尋餘なり、Kien 河口の水深小なるため大型船は  
東側の河流 Kien Nam Tien より航入し、爾河身を接続する運  
河を通航し Kien 河に入り本港に達す。  
港内設備 : Quai des Paque de la Chambre de Commerce : 〇

棧橋は長さ二千呎餘幅五十呎ありて一萬噸級汽船四隻を同時に繋留し得べく棧橋上に數條の引込線を敷設し貨車を船側に來らしむ。

供給 燃料炭は Hongkong 炭にして其貯量多し、積込に對する特別の設備なし、重油はスタンダード石油會社に三千四百噸、France Asiatique des Petroles に四千百噸の貯藏を有す棧橋に横付して搭載す。

市内狀況 人口約七萬内佛人千六百四十八人なり、在留邦人六十四人主として旅館、雜貨商等を營むも一般業務振はず、土人街の一部を除き上水道完備し道路は毎朝八時に掃除し午後二―三回撤水す。衛生設備佳良なり。風土病として「マラリヤ」あれども近來著しく減少し「ペスト」「コレラ」等の傳染病は兩三年發生を見ずと云ふ。(水路要報による)

### ○雲南の錫

雲南錫は省の東南部滇越鐵道の一驛たる碧風寨の西南鐵路約四五哩の箇舊錫山より產出せらる、錫業者の最大なるものは官商合辦の錫務公司にして資本金百七十萬元其他は大小錫業者が隨意に鑛山を私有採掘し居れるものにして、重なるものみにて七十餘廠坑主千人と稱せらる。以て其盛なるを知るべし。工夫數は現時約十六七萬人に達し箇舊錫山一年の產額は八千餘噸にして支那第一なるのみならず、世界總產額の約百分七を占め新嘉坡、和蘭、南米、英國漳州に次ぎ世界第五位にあり、其大部分は香港に送られ同地にて精煉し、成分統一の後大半を米國に供給し其餘は英國日本上海に仕向けられ一年の輸出額八百萬兩乃至一千萬兩に達す。

○世界の棉花栽培 世界主要棉產國の昨年度の棉花栽培を見るに、米國の棉花作地積は埃及並メキシコ同様、幾分一昨年度よりも、増加を示めしなりと雖も其比率は僅に四、二五%

を算するのみ、且同國昨年の棉花發育狀態は極めて不良にして收穫豫想高は二二、一四四、〇〇〇俵なり、つぎに埃及全國の昨年棉作地積は大約二、〇五〇、〇〇〇フエダンにして内一五〇〇、〇〇〇は下部埃及及び残りは上埃及及地方に屬す、下部埃及及地方にてはサケラリデスと稱する長纖維の栽培約五五%を占むるに反し、上部埃及及地方にては悉く短纖維のみを栽培す、蓋し世界棉花市場の長纖維を需要すること最近減少の傾にあり、米國アリゾナ州カリフォルニア州等の棉作者も亦長纖維を捨て、短纖維を栽培するに至れり。

近時支那の棉作成績頗る良好なりと傳へらるゝを以て、今後同國の栽培面積増大を豫期しうべく、伯國、祕露、漳州、阿弗利加の二三植民地、露國其他の地域にても夫々多少の増加を豫期すと雖も、世界一般の棉花栽培地積が、米國並にメキシコ兩國に於ける、ホールウィーヴイル及其他の棉花大産地に於けるピンクホールウオームの被害に起因する產額減少を補填し得る程度に増進すべしとば、今後數年間恐らく期待し得ざるべし、茲に於てアルゼンチンの平野に棉花栽培を奨励することとなり同國北部サンタフェより、コルリエンテス、ミシオネス、フォルモサ、チャコ、サンチアゴ、デルエルテロ、カタマルカ、ツクマンフイ其他の州に亘り、數百萬町歩の廣大なる土地は全部棉花栽培地として注目せらるゝに至れり、デルエステロ市附

近の如き昨年度に最初の收穫あり、見込確實となりしがために其獎勵につめさつゝあり、聞く處によれば亞國チヤコの一エクタールの生産費は、一七〇ペソなるに北米にては平均二四九ペソを要す云へば、亞國の棉作者は米國よりも僅少の費用を以て生産し得るなり、思ふに遠からずアルゼンチン國は棉花生産國として米墨二國に次いで重要な位置を占むるに至らん。

○オルモス大灌漑工事 祕露國にては幾にカニエテのイムペリアル灌漑工事に成功したるに由り近時更にオルモス灌漑工事に着手しラムバイヤケ川を誘導し五千萬立方米の大貯水池をつくり、三十萬ヘクタルの米砂糖耕地を灌漑し、今日迄の砂漠地を一變せしめんさしつゝあり、一九二七年迄には竣工の豫定にて工費見積三十七百萬ソールなりといふ。

○山東の落花生 山東省の落花生は他の農作物棉花高粱小麦と同様極めて普通的にして、到處其栽培あり、其土地黄土砂土質なれば、落花生に最適し他省産物に南支産品に比し其粒大きく且光澤あり、落花生油原料として搾油に適す、且當省は雨量乏しき乾燥地なれば、其成育に際し水分過多の患なく、栽培も容易に施肥も簡單なり、乾燥の度はげしくとも枯死するの患少く誠に調法なる作物とす、例年舊曆の四五五月頃に播種し、九月頃收穫す即其生育期も四五ヶ月間なれば天災に會する機會少く播種後例年多少の雨ありて生長を助け、收穫期には乾燥の時候となる等、好都合の状況の下に發展し大量生産地として、黄河以南大汶口泰安兗州を中心とし、之に次くは南部臨沂、莒

州、沂州とす。黄河流域より北部地方の禹城夏津一帶も相當の産出あり、本省の全産額は地方に就て消費せらるゝもの可成の多額に上り居れば的確なる數字は不明なるも年産額十萬噸以上になるべし、濟南に集中するものゝみにても年額六萬噸に達す集散地は、大汶口、濟南、臨沂、天津青島芝罘等なるが大汶口物と稱するは淡白色にして外觀も美しく搾油原料として食用として最適す、黄河以北の分は禹城物とて、粒大なるも殼厚く脂肪分少く河南産と大差なし、一般に形の大なるを、大花生と呼ぶ、砂土砂地の産なるが小花生は粘土質の産にして粘土が實に附着し篩を用ひざれば除去すること出来ざるため一名篩貨と云ひ價も廉なり、主として膠濟鐵道によりて青島に發送せらる其量大正十二年度五萬四千噸に上り、濟南に於て、三井洋行、鈴木商店等の取扱高尤も多しといふ。

○海軍水路部より小川博士へ 昨年十一月發行貴著日地圖帖は誠に有益なる著書にして當部に於ても地名の調査上貴重な參考資料と致居候然るに同帖第五十二版沖繩及臺灣の部に於て宮古島南東沖合に圖載有之候小島は過去には疑存島として當部海圖(明治三十年版)にも圖載し「いきま」島と稱せられたるも其後測量の結果存在せざることを確め明治三十九年水路告示第五三三一項を以て海圖より削除し現行海圖には既に記載無之者に候條御參考迄。

小川博士の日本地圖帖が舊冬發行されて以來毎日の如くに諸方から多大の讃辭と親切なる誤謬の注意等を寄せられてゐるので著者は悉く期待に反かざることを感謝して居られる。

素より斯の如き浩瀚なる材料を取捨しつゝ、長日月を費して編纂された地圖帖に一の誤記謬所のないことを求めることは實に不可能に屬するものである。

恐らく人間の持つ精緻と功妙さを極度に發揮し、想像外の巨費を投じ、技術上にも前人未到の表現を完成して、自他共に底知れぬ力を認めて、一國文化のスケールの重實を完ふしつゝ、ある現行歐洲の五指に餘る地圖帖類も、四五十年を遡つた搖籃期に於ては、微々として生育を危まれる程度のものである。然るに此萬人の許す羨望に堪えない今日の發育に達した諸地圖帖すら猶多くの謬記が容易にし指摘し得らるゝは地圖編纂事業の如何に困難なるかを雄辯に物語るものであらねばならぬ。

この意味に於て今や吾國も小川博士の異常なる努力によつて始めて日本地圖帖の生誕を見たのであるが、今後完璧に至る迄には、著者の研鑽に待つのみでなく所謂相互扶助の親切さを以て育まれるなれば邦家文化のためにもより良き地圖が編纂されることになるのであるから、今後共に協力指教を希ふ次第である。

## 新刊紹介

### ○日本地圖帖 小川 琢治 著

價三十六圓 大阪南區大寶寺町成象堂發行  
地圖は文化の尺度である。我が國によき地圖帖のないことは

雜報

大な文化の欠陥であつた。然し之を編著して世に公にすることは誰にでも爲し得る事業ではなく、地學界の著者の手を待たなければならぬ大事業である。此の點に關しては小川博士は我日本第一の第一人者であらねばならぬ。大正八年から着手された地圖帖の出版は中途震災の爲めに既刊の數千部を烏有に歸した故障があつたにも係らず遂に堂々たる體容を具備して公にされたことは日本文化史の上に一異彩を放つと謂ふべきである。其大さは縦三十一糎半、横二十三糎で、マチラー又はアンドレーの如く大ならず、之を机上に縋くに甚だ便利である。一圖版の大さは上記の大きさの二倍にして往々之以上に達するものもある。總て六十一版、百万分一及五十万分一の縮尺を以て本體をなし、大都市附近は特に二十五万分一、七万五千分一、五万分一等の諸種の縮尺を用ひて細部を現すものとした。地圖の特色は彩色層圖であつて一見地勢を明にすることが出来る。五十万分一以上の大縮尺の圖葉に在つては市界、國界、縣界は赤線を以て劃されてあるが故に地勢圖なるにも係らず一般人の讀圖に甚だ適して居る。地圖の外觀の良否は印刷の巧拙にかゝることが甚だ大なるものであるが、本地圖帖の各葉を窺ふに快感を覺えしむる程の美しさである。第十七版及第十八版の關東地方五十万分一の如きは其精巧さに於て日本で印刷された地圖中初めて觀るの出来映えである。本紹介者は一本の惠贈を獲た其の夜醜讀反覆して夜半の嚴寒も覺えなかつた程である。地圖の精巧な上に本地圖帖には彙に「地球誌」上で紹介された様に村名索引があり、且つ別に地名彙があつて之を併用すれば大字等を